

# おやつのはじめ3 -ちょっとひとやすみ-

—どこがいいでしょう—

NO. 42



人から何かの使い方や作り方を教えてもらうとき、どうやって教えてもらうのが分かりやすいですか？口頭で説明されただけで分かるものもありますが、実際にやっている姿を見せてもらうほうが分かりやすいものもありますね。一度でわかることもあれば、何度繰り返しても「あれあれ？」「ここどうするんだっけ？」と、同じところをつまずいてしまうこともあります。そのうち、焦りや諦めの気持ちが覆いかぶさってきて、意地になるか、モチベーションを下げるか…。教える側は見かねて手取り足取りに。あれれ？な～んだ、子ども達と変わらないですね。きっと、ゆっくり、やさしく、わかりやすく教えてほしい気持ちは、いくつになっても変わらないもので、特別なことじゃありません。

さて、子ども達に何かの使い方や作り方を教えていくときに、大人は子どものどこ(どの位置)に座ればいいでしょう？自然としていることかもしれませんが、改めて考えてみましょう。

机上で何かを作る場合、大人が子どもに寄り添い手をかしていく位置は、前からか、横からか、後ろからかの三択になりますね。それぞれにメリット・デメリットがあるのですが、少しまとめてみます。

## ①前から手をかす場合

見本を見せるような場合は、前から働きかけると子どもの視野を広くし、全体像が見渡しやすくなります。見るべきポイントをしっかり見ているか、やる気になっているか等、向き合っていることで表情をつぶさに見ることが出来ます。ただし、子どもの前からだと、子どもの手や道具の動きに合わせて手が出しにくく、席を離れそうになったときに遅れてしまうので、ちょっとできるようになってきたときからの大人のポジションです。

## ②横に座って手をかす場合

子どもと並んで取り組むことになるので、やってみせる見本も同じ方向で見せやすくなります。子どもも手下の細かい部分に注目しやすくなり、取り組みやすくなります。また、聞き手と反対側に座ると、大人の手を後ろから回せるので手伝いやすくなります。子どもとの距離も近く、苦手なことも大人と一緒に頑張れる安心感が作りやすいと思います。席を離れそうになったときに、さりげなく押さえることも出来ます。

## ③後ろから手をかす場合

“二人羽織”のように真後ろから、子どもの手を取るように一緒に動作を運んでいく形です。子どもと手の動きが同じになるので、動作を正確に伝えることが出来ます。苦手感が強い子や動作が伝わりにくい子には、大人の働きかけに応じる形になるので受け入れやすく、スキンシップも併せて感じられるので、やらされている感じを持たないで経験することが出来ます。ただし、子どもの目線が見えないので、人がいれば、前から別の人にサポートしてもらうとベストです。

ちょっとテクニカルな話でしたが、大事なことは、大人が“めんどくさがらない”こと、これにつきまします。ため息をつきながらでも構いませんので、「やろっか～」と腰を上げて3歩だけ余計に歩くと…、きっといいことがありますよ。(R1. 11)

